

「マグニフィカト」
—マリアの賛歌—

2005年アドベント



クリスマス物語の4つの歌

- ザカリアの賛歌:「ベネディクトゥス」
- マリアの賛歌:「マグニフィカト」
- シメオンの賛歌:「ヌンク・ディミティス」
- 天使の賛美



マグニフィカト（ルカ1:47-55）

そこで、マリアは言った。

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう、

力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。

主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。

その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

マグニフィカトの背景

＜ルカ 1:26-38＞

- マリアは結婚をひかえたごく普通の女性
- 突然天使が現れ、男の子を産むと告げた
- マリアは結婚前であったのでありえないと答えた
- 天使は、これは神の業であると告げた
 - 不妊の女であったエリサベトの懐妊が証拠となった

まず神を賛美する

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます」

- 「あがめる」(マグニフィカト)とは「偉大であると認める」という意味である
- 素直に純粹にまず神をほめたたえる信仰
 - すべては神によって存在し、神によって動き、神に帰する、と信じている

へりくだって受け入れる

「身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう」

- 自分は価値のない者だと認めている
- 自分を幸せな者と思っている
 - このことで婚約が解消されるかもしれないが、神が自分に目を留めて下さったことを誇りにしている

広い視野で理解する

「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ…」

- 自分から生まれてくる子により、ダビデ王のような公平な支配が復活する、と信じた
 - 自分自身のことでは喜んでいるのではない。
- 神の計画に基づく過去と未来の狭間に自分を置いている

マリアに学ぶこと

- 私たちは、人生に神がなされることについて、いつも明快に理解しているわけではない。神の方法は神秘的で時に複雑であり、痛みを伴うこともある
- しかし、すぐに理解できなくても、神の御心を素直に受け入れることが大切である
- 自分自身がどうなるかではなく、自分を通して神が何をされるかを考える

マリアに学ぶこと

- マリアは、自分の身の上で起こったにわか
に信じがたい出来事を受け入れ喜んだが、
それは自分が幸せになれると思ったからで
はなく、そのことにより自分の民族や更に
多くの人々に喜びが与えられる、と確信し
たからである。

